



三彩長頸瓶 唐時代 7～8世紀
川端康成旧蔵

幻のコレクション

中国陶磁名品展 —イセコレクションの至宝—

■ 前田家の調度 —唐物を中心に— 前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 唐物への憧れ 第2展示室

■ 没後50年 吉田三郎展 第4展示室

- 第68回現代美術展
- 4月のコレクション展示室 主な展示作品
- 平成23年度のコレクション展示室を振り返って
- 展覧会回顧「古美術優品展～山川コレクションを中心とした茶の湯の美～」
- バスツアー予告
- 4月の行事予定

当館企画展

幻のコレクション

中国陶磁名品展 —イセコレクションの至宝—

主催／石川県立美術館、イセ文化財団 後援／北國新聞社、朝日新聞社、中華人民共和国駐日本国大使館（予定）

4月22日(日)～5月13日(日)会期中無休

太古以来、土と炎が生み出す焼き物は、人類の生活にとって不可欠の道具です。そして原始時代から、人々は焼き物に単なる「用」のみならず、「美」を追求してきました。中国の陶磁は、八千年の歴史を持つと言われています。それは、たゆまぬ技術革新と新たな美的価値開拓の歴史であり、世界の陶磁史をリードしてきました。

日本の陶磁も、奈良時代の三彩から近代の色絵磁器に至るまで中国陶磁の影響を強く受けている上に、室町時代に書院における室礼が形式化されると、中国陶磁を賞翫する独自の美意識が確立されました。このため、日本には諸国に較べて中国陶磁の名品が数多く伝来しています。

本展は、美術品収集家としても知られるイセ食品グループ会長、伊勢彦信氏のコレクションより、中国の新石器時代から、戦国、漢、六朝、北魏、唐、宋、元、明、清の時代の陶磁器の名品を選び、重要文化財二点を含む約百二十点を一堂に公開するものです。伊勢氏の中国陶磁コレクションは質の高さで国内外から高く評価されていますが、これまでその全貌が公開されたことはありませんでした。今回は、一部の研究者のみが知っていた「幻のコレクション」が初めて一挙に公開される貴重な機会となります。

関連行事

◆ギャラリートーク ※展覧会観覧料が必要です。

会期中の毎週日曜日

・ 4月22日・4月29日・5月6日午前11時～

・ 5月13日午後2時～

◆土曜講座（聴講無料）

「中国陶磁と日本の美意識」

担当…村瀬博春 学芸第一課担当課長

日時…5月12日 午後1時30分

会場…石川県立美術館 講義室

■観覧料（ ）は20名以上の団体料金

一般	一、〇〇〇円（八〇〇円）
大学生	六〇〇円（五〇〇円）
高・中・小生	三〇〇円（二〇〇円）

※4月23日（月）は記念式典を開催しますので、午前11時～午後4時まで一般来館者の全館の観覧を制限させていただきます。



青花花卉唐草文様花盤
明時代 15世紀



青白磁瓜形水注 景德鎮窯
宋時代 11～12世紀



黒陶高脚杯
新石器時代 紀元前2500～2000年

前田家の調度

—唐物を中心に—

3月29日(木)~4月17日(火)会期中無休
4月22日(日)~5月13日(日)会期中無休

1F企画展示室

学芸員の眼

「幻のコレクション」。半世紀以上に某家の売り立て目録に掲載されていたが、その後長く所在が知られていなかった作品が眼前にある。そうした経験をした時に、思わず発する言葉がこれではないでしょうか。今回の展覧会には、そうした作品が多数展示されます。本展を鑑賞されたかたにとって「幻の」作品との出会いは、心地よい驚きをもたらすものと思います。同時に今回展示される作品の多くは、欧米のコレクターによって所蔵されていた履歴を持っています。静かにたたずむ作品の背景には、社会情勢の変動や、時々の所蔵者にまつわるエピソードがあります。そのことが、より一層作品に光彩を添えているとも言えます。是非この貴重な機会をお見逃しなく。

平成二十四年度春季企画展「幻のコレクション
中国陶磁名品展 ―イセコレクションの至宝―」
開催にあわせ、唐物を中心とした作品を展示いたします。

日本には室町時代の対明貿易により多数の唐物が請来し、足利將軍家をはじめとして格式を重んずる座敷飾りに唐物が尊重されました。このように日本人は大陸の文化にあこがれてその美をお手本としながらも、日本人の感性によりその美的感覚を変容させることで、独自の文化を形成してきたところに日本の文化の特色があります。今回の展示では、大名家の書院の床を飾った王若水（元時代十四世紀）の花鳥図大幅をはじめ、調度品として使用されていた唐物のなかから、漆芸品や陶磁器類を中心に展示します。日本文化の根幹ともいえる唐物の美をお楽しみください。

主な展示作品

- 花鳥図 王若水筆
- 青貝丸形四重印籠
- 青貝蓮唐草文庫
- 堆朱雲月布袋香合
- 螺鈿舟人物香合
- 堆朱柿図香盆
- 唐物青貝松に人物図軸盆
- 堆黒鳳凰文軸盆
- 漆絵螺鈿草花文喰籠
- 青貝楼閣人物図喰籠
- 青磁二重鉢
- 青磁輪花鉢
- 青磁八葉蓮華鉢
- 琉璃地草花文平鉢 餅花手
- 呉須赤絵平鉢

没後50年 吉田三郎展

4月22日(日)～5月13日(日)会期中無休

本年度で没後五十年を数えます彫刻家吉田三郎の回顧展です。吉田三郎(明治二十二年／一八八九～昭和三十七年／一九六二・享年七十三歳)は本県を代表する彫刻家の一人で金沢市出身。石川県立工業学校から東京美術学校(現、東京藝大)へ進学します。県工時代には生涯、師と仰いだ板谷波山と青木外吉の指導を受け、また美術学校の同級生には北村西望・建畠大夢・斉藤素巖など生涯よきライバルとして切磋琢磨する仲間にも恵まれ、共に官展で活躍、芸術院会員を勤めました。吉田三郎の作品は筋骨逞しい男性像を中心とするもので、若い時は労働者像など社会的テーマが見えますが、群像や空間性を意識した作風へ変化を見せました。また肖像彫刻や小動物作品も多く手がけ

ており、特に肖像は「写実の能手」と謳われた吉田三郎の得意とするものの一つで、像主の人となりから雰囲気までもを伝えており、なかでも芸術家をモデルにした首作品は、各像主の個性や深い人間性が溢れる優品群となっています。吉田三郎は郷土との深い繋がりも窺え、東京田端文士村に住み、多くの芸術家や室生犀星を含む文人仲間を中心に在ったと伝わり、吉田三郎を頼って郷土から多くの美術家が集ったと言われています。

展示は館蔵品を中心に戦後作以降の吉田三郎作品を概観するもので、現在、当館の近代彫刻コレクションの柱ともなっているものです。



男立像 吉田三郎 昭和24年

唐物への憧れ

3月29日(木)～4月17日(火)会期中無休
4月22日(日)～5月13日(日)会期中無休

古来、遠方から運ばれてきたもの、その中でも特に時代を経たものは珍重される傾向があるようです。唐物(からもの)とは、日本の中世から近世にかけて特別の価値を付与された、中国で制作された美術工芸品などの雅称です。改めて申し上げるまでもありませんが、この場合の「唐」とは概念的な中国一般を指し、唐時代に作られたという意味ではありません。そして、時としてインドや東南アジア、中東産と想定されるが産地が特定されるに至らない舶来品も、唐物とされる場合があります。

唐物は、室町時代に書院における室礼(しつらい)の形式が確立されるにもなって重要な意義を持つものとして価値の体系化が図られました。

足利將軍家では、同朋衆である能阿弥、芸阿弥、相阿弥らが唐物目利として優品の選定を行っています。その成果は、彼らが編纂した『君台観左右帳記』に伝えられています。

今回の特集では、このような美意識の伝統によって室町時代から江戸時代を経て今日まで継承されている「唐物への憧れ」という視点から、主に中国の明時代の絵画、陶芸、漆芸作品を選んでみました。



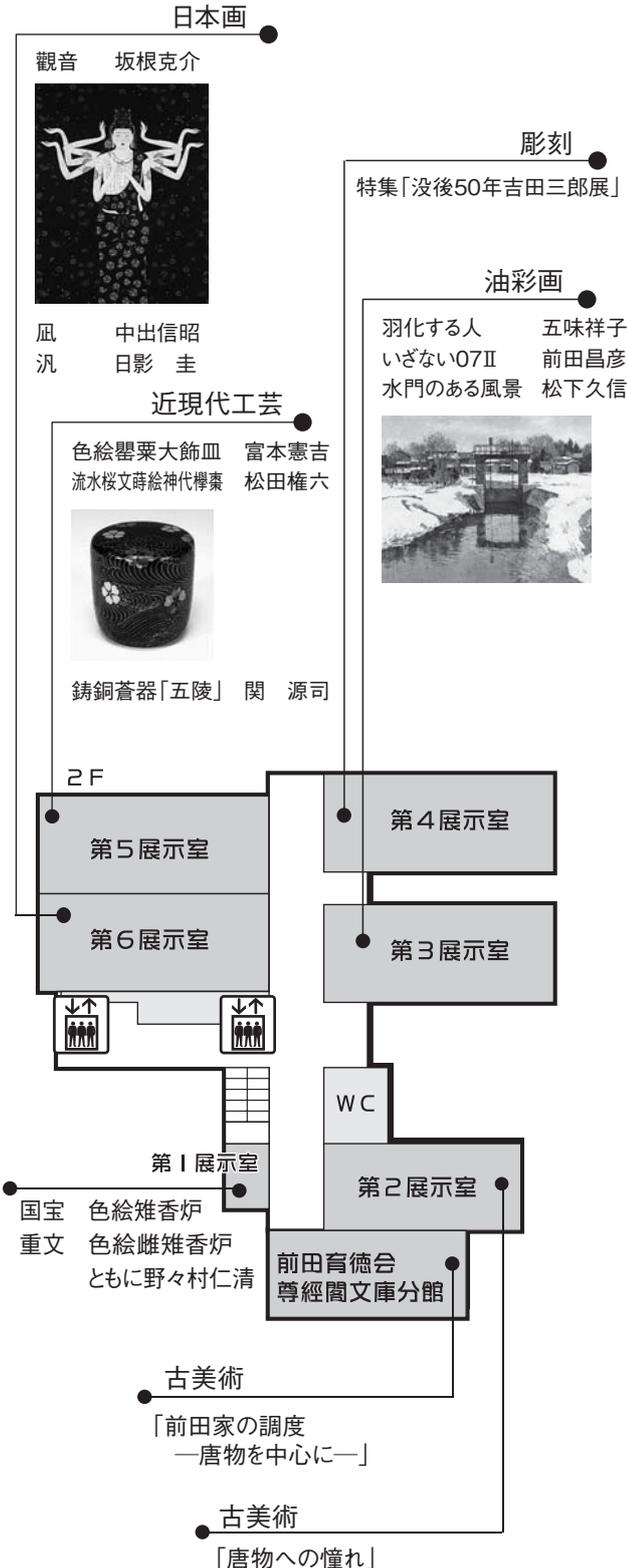
五彩双龍文長合子 明16世紀

主な展示作品

第68回 現代美術展

4月22日(日)～5月13日(日)会期中無休

3月31日(土)～4月17日(火)会期中無休



昭和二十年十月に第一回展を開催して以来、毎年行われています。現代美術展は、今年六十八回を迎えます。本展では所属会派を超えて、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の六部門から、文化勲章受賞者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめとする財団法人石川県美術文化協会役員・会員の秀作に加え、一般公募からの入賞・入選の意欲作が一堂に展示されます。

部門 日本画 (第7・8・9展示室)
工芸 (第3・5・6展示室)
書 (第4展示室)

金沢21世紀美術館では洋画・彫刻・写真が展示されます。

入場料 (金沢21世紀美術館と共用)

団体	前売り	当日	一般	大高生	中小生
	八〇〇円	九〇〇円	一、〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
	四〇〇円	五〇〇円	六〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

作品解説 会期中、作品解説を行います。

開館時間 午前九時三十分～午後六時
毎週金曜・土曜日は午後八時まで開館

平成23年度の コレクション展示室をふりかえって



「加賀藩の美術工芸」



「西山英雄と一門展」



「竹工芸・橋本仙雪」

コレクション展示室では、展示にあたって月ごとにテーマを設け、さらに特別陳列と特集展示を行いました。

前田育徳会尊經閣文庫では、特別陳列として九月に「加賀藩の美術工芸」を開催しました。加賀藩の美術工芸を「収集」と「育成」の視点から概観したもので、三代利常から五代綱紀が収集育成した、優れた文物や美術工芸品を中心に、重要文化財八件を含む約二十件を展示しました。十月の「尊經閣文庫名品展―国宝・積経要品―」では前田育徳会所蔵の「宝積経要品」・「賢愚経」の国宝二件と、重文「法華経」・「貞元華嚴経」、吉田兼好筆の重文「兼好家集稿本」をはじめとする紙背に関連する歌人たちの書を含めて十七件が展示されました。

第2展示室では六月、本県に伝来する十八件の「仏教絵画」の展示を行いました。

近現代美術では、二つの特別陳列を開催しました。七月に第4展示室で「西山英雄と一門展」を開催。西山氏は金沢美術工芸大学日本画科の教授として昭和四十七年から五十二年まで教鞭を執りました。氏の作品十点から画業の一端を振り返るとともに、金沢美術工芸大学出身の十名の門下生の作品二十点の展示を通し、指導者の一面と門下が受け継いだ芸術の一端をご覧いただきました。十一月に第5展示室で「竹工芸・橋本仙雪」を開催。金沢で活躍した橋本氏は、主に日本伝統工芸展へ出品。確かな技術に裏付けられた作品は伝統を踏襲しながらも創造性にあふれ、いずれも時代を超えた普遍的な美を感じました。展覧会出品作を中心に三十一点の展示でした。

特集展示は、四月に第4展示室彫刻作品による「顔く様々な表情」、六月に第3展示室「生誕百年 森本仁平展」、第5展示室「工芸に見る鳥の意匠」、七月には、恒例になった「夏休み親子で楽しむ美術館」を開催。テーマは「さがしてみよう」で、「季節をさがしてみよう」「いくつあるのかな」「おめでたいもようをさがしてみよう」の三つのコーナーで構成され、探す中から見る力を養い、なかなか楽しいと好評でした。十月には第4展示室で「古澤洋子・五味祥子・山下晴子」を開催しました。日本画家古澤氏は額装、屏風装を交え八点、油彩画家五味氏は横四mの大作など九点、彫刻家山下氏は石と金属を複合せた十六点、計三十二点が一堂に会したもので、ジャンルの異なる三人の競演をご覧いただきました。十一月には第3展示室「没後二十五年 高光一也展」、年明け一月第6展示室「ハレを描く日本画」、第3展示室で「洋画の先駆者佐々木三六展」を開催しました。福井生まれの佐々木三六は、明治後半から大正にかけて本県の洋画に多大な影響を及ぼした画家であり美術教師でした。イタリア留学時代から晩年までの油彩・水彩など四十余点を展示しました。二月の第3展示室「寺田栄次郎展」は金沢美大教授でヨーロッパ古典絵画技法と描画材料について研究を続ける寺田氏の十センチ四方の均一なサイズの作品が七十六点並びました。均一な極小サイズの作品がうかがわせる深遠の世界を堪能いただけたと思います。

コレクション展示室は、毎月第一月曜日は無料です。これを機会に是非コレクション展示室をご利用ください。

展覧会回顧

古美術優品展

～山川コレクションを
中心とした茶の湯の美～

今回の展覧会は、当館所蔵の山川コレクションを中心とした古美術作品のなかから約一三〇点を選びすぎり展示しました。展示は(1)山川コレクションを中心とした茶の湯の美、(2)屏風絵にみる日本の美、の二部門で構成し、山川家三代庄太郎氏の没後五十年の節目にあわせ開催したものです。この五十年は当館の歴史とも言いかえることができます。山川家は、当館の顔ともいえる国宝「色絵雉香炉」(野々村仁清作)の旧所蔵者であり、昭和三十四年の旧館開館を記念して、三代庄太郎氏から石川県へ寄付され、庄太郎氏の遺言により山川美術財団が結成され、山川家の茶道美術を中心としたコレクション一三一点は旧館に寄託、さらに新館開館時に寄付されたことで、当館の古美術部門の核となりました。今日では、このコレクションの存在がさらなる所蔵品の充実に果たしている役割は、言うに及びません。

地元の皆様には展覧会をはじめ、講演会や講座、ギャラリートークなどの関連行事にもたびたび足を運んでいただきました。一方、厳冬の季節にもかかわらず遠方からの熱心な来館者や、一人で来館され、時間をかけて熱心に鑑賞される姿が目をはひく展覧会でした。

これからも所蔵品を生かした展覧会を充実させて、美の鑑賞の機会を重ねることで、「名器名品の鑑賞によって養われる美的教養は宗教的情操と同じである」(財団設立趣意書より)という庄太郎氏の遺志を伝えていくという使命を再認識する展覧会となりました。

本展開催にあたり、山川家やその関係者の皆様には心より感謝申し上げます。



平成二十四年度

美術館バスツアー(予告)

今年度春の日帰りバスツアーは、富山県砺波市・南砺市の寺院・美術館を中心とした、越中富山の文化財・美術館を見学します。おもな見学先として、梅原龍三郎展が開催される砺波市美術館、南砺市の棟方志功記念美術館とゆかりの寺、井波木彫の優れた技術を集めた木造建築の瑞泉寺など、六か所前後を予定しております。

日時など詳しい内容、募集要項などは次号の美術館だよりにてご紹介します。

四月の行事予定

■桜めぐり 映像ギャラリー 午後1時30分～4時

美術館ホール 入場無料

8日(日)

「シリーズ 北陸の工芸作家 石川の匠たち」から、前史雄氏・大樋長左衛門氏・中川衛氏・吉田美統氏などの記録映像を5番組続けて上映します。

お詫びと訂正

前号の7ページ「次回の展覧会」の展覧会会期に誤りがありました。正しくは本号の展覧会紹介ページに記載されているものです。お詫びし、訂正いたします。



緑釉獸環壺
漢時代 1～3世紀



白地黒掻落し牡丹唐草文瓶 磁州窯
宋時代 11～12世紀



重文 青磁鉄斑文柑子口瓶 龍泉窯
元時代 13～14世紀



青花龍唐草文盤
明時代 16世紀



重要美術品 法花蓮池水禽文瓶
明時代 15～16世紀



重文 五彩金欄手花鳥文甌形瓶
明時代 16世紀

次回の展覧会

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	第3～9展示室
百万石大名の装い —甲冑・陣羽織—	漆の美 —加賀蒔絵を中心に—	第43回日展金沢展
会期: 5月17日(木)～6月10日(日) 6月14日(木)～7月16日(月・祝)	会期: 5月17日(木) ～6月10日(日)	会期: 5月19日(土) ～6月10日(日)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 350円 (280円)
大学生 280円 (220円)
高校生以下 無料

※ () は20名以上の団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日

4月の開館時間

午前9:30～午後6:00
(6日(金)、7日(土)、13日(金)
14日(土)は午後8:00まで
開館)

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

4月の休館日は
18日(水)～21日(土)

 やさしさ品質

お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン

地階 **エムザ** 食品館

広告

“もっとお客様へ、もっと地域に”

MEITETSU
MIZA
めいてつ・エムザ
金沢・むさしがは TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/

石川県立美術館だより
第342号(毎月発行)
2012年4月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>